

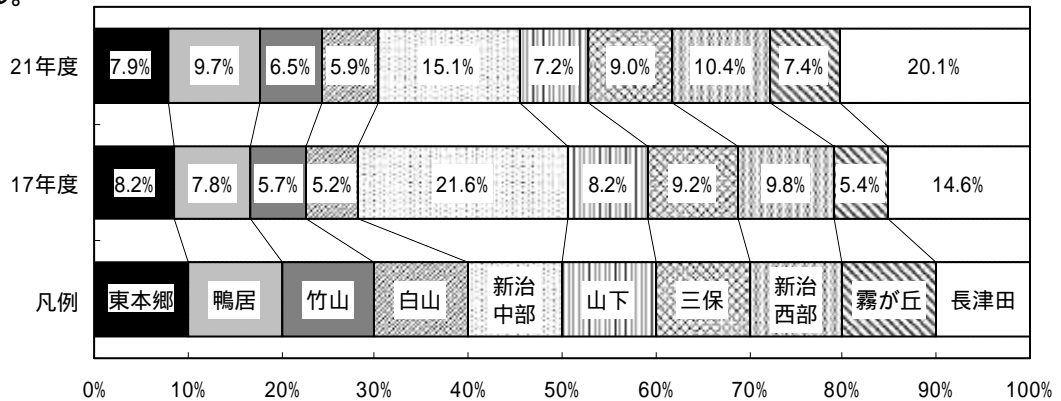
#### 4. 過年度との比較

緑区では平成 17 年度に「緑区地域福祉保健計画」策定のための区民アンケートとして、本調査と同様の設問を含む調査を実施している。

第 1 期みどりのわ・ささえ愛プラン（平成 18 年度～平成 22 年度）の推進を踏まえ、共通する設問について、平成 17 年度調査と本調査の比較を行った。

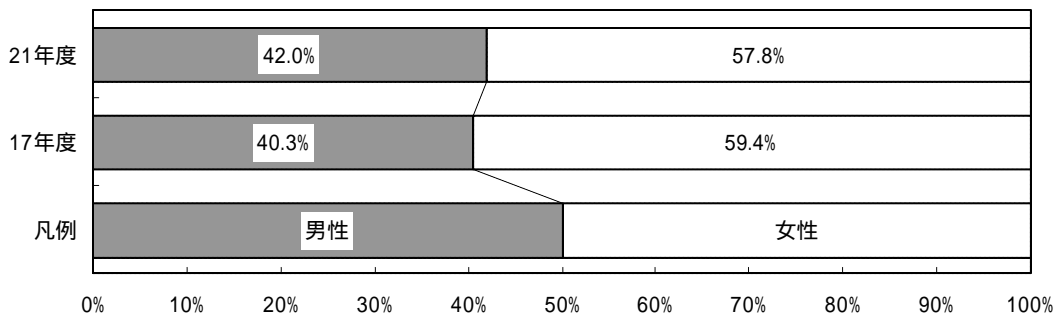
##### 問 1 居住地区

地区別の回収数はほぼ似た傾向にあるが、「新治中部地区」で減少し、「長津田地区」で増加している。



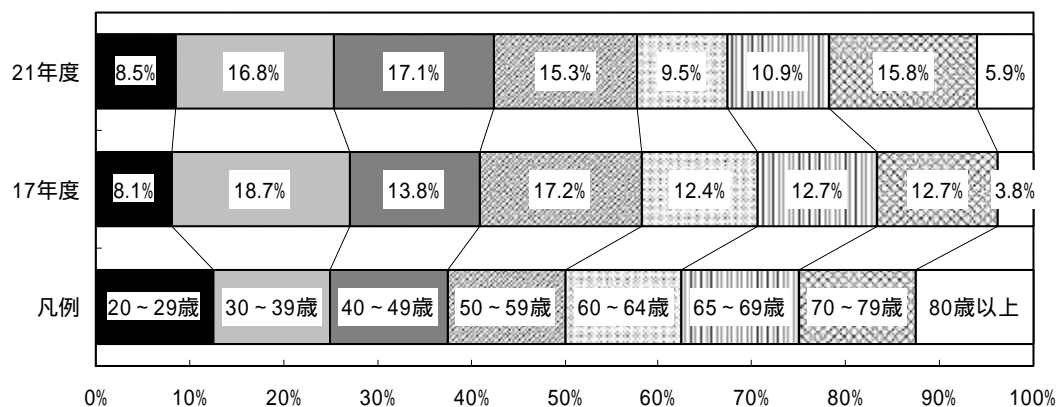
##### 問 2 性別

回答者の性別は、どちらもやや「女性」が多かった。



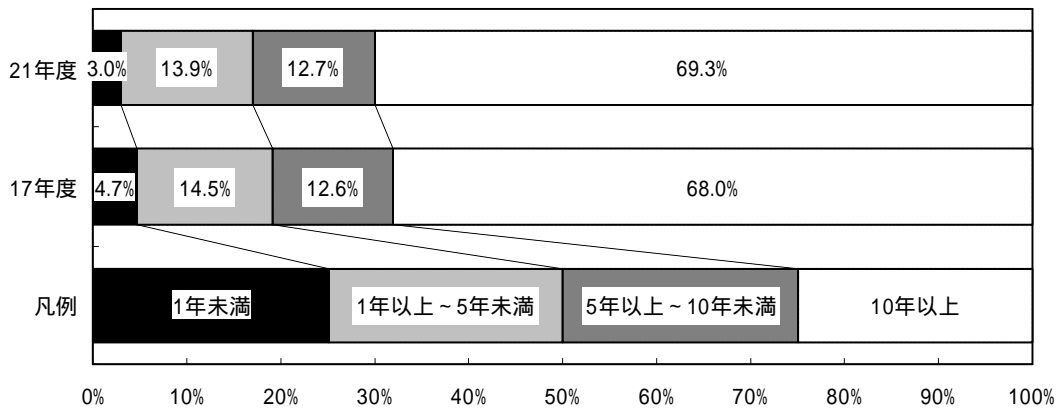
##### 問 3 年齢構成

回答者の年齢層については、「40～49歳」と「70～79歳」の占める割合がやや増加している。



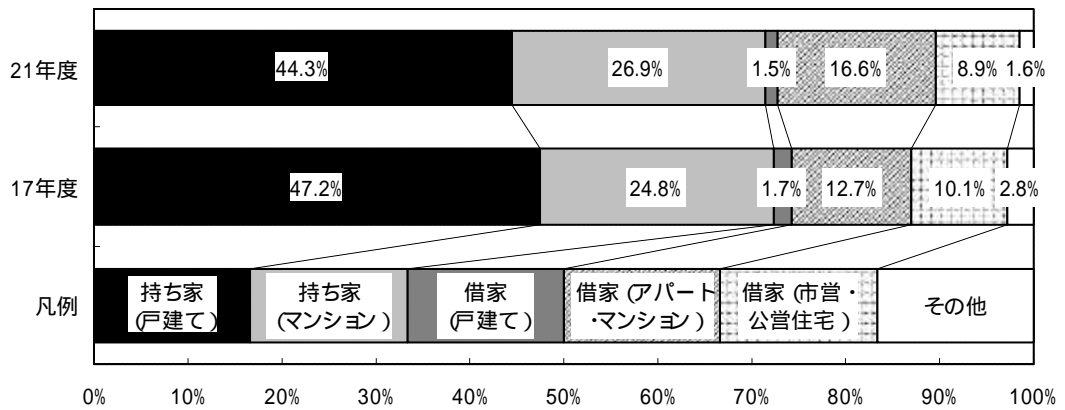
問4 居住年数

回答者の現在地での居住年数は、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



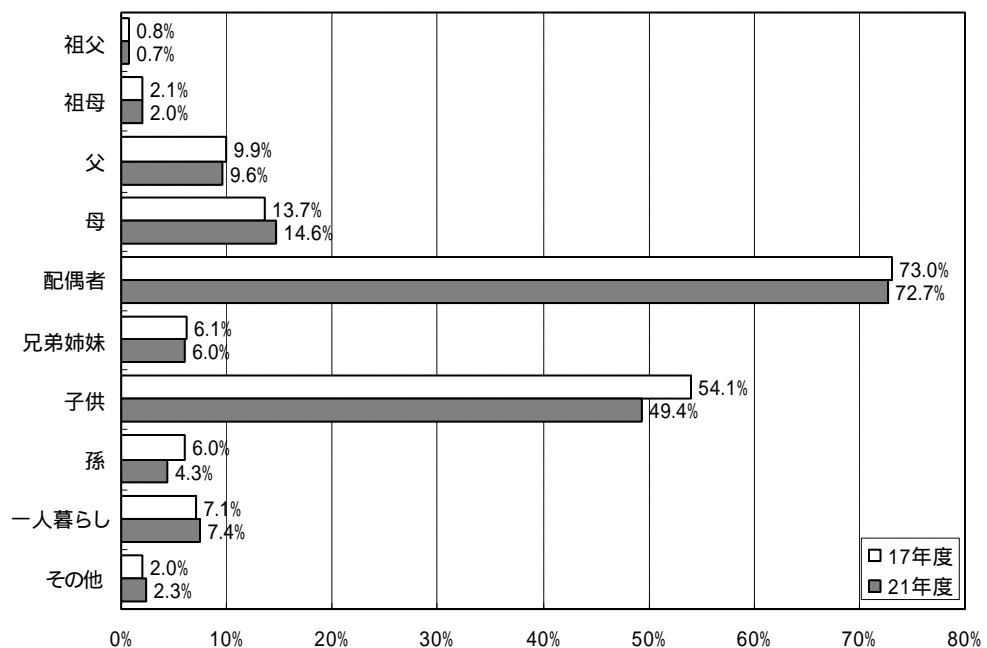
問5 住まいの種類

回答者の住まいの種類別は、「持ち家(戸建て)」の比率が減少し、「借家(アパート・マンション)」の比率がやや高くなっている。



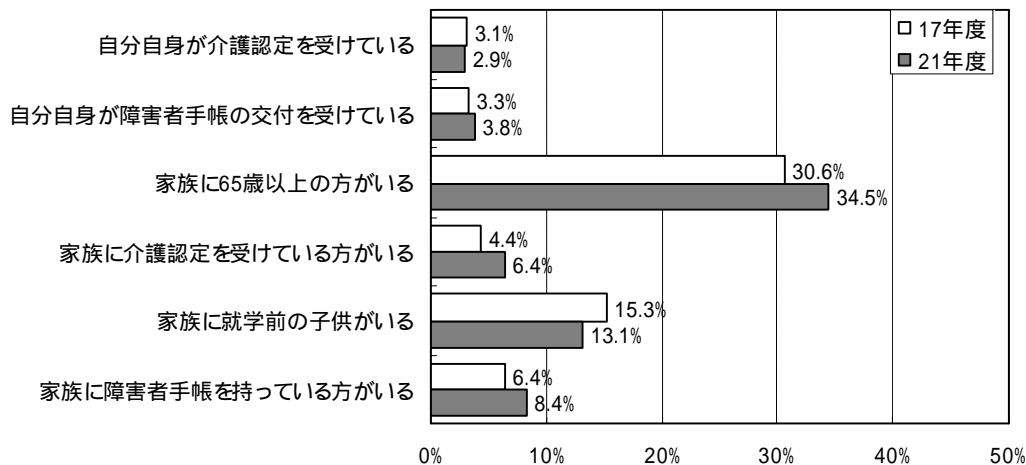
問6 同居者の関係(複数回答)

回答者と同居する家族については、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



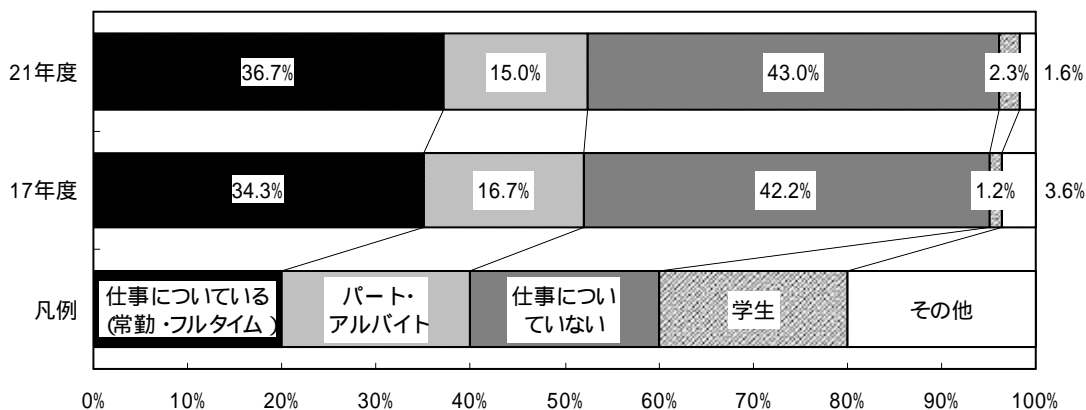
問7 回答者及び同居者の状況(複数回答)

回答者及び同居者の状況は、「家族に65歳以上の方がいる」、「家族に介護認定を受けている方がいる」、「家族に障がい者手帳を持っている方がいる」がやや増加しており、「家族に就学前の子どもがいる」がやや減少している。



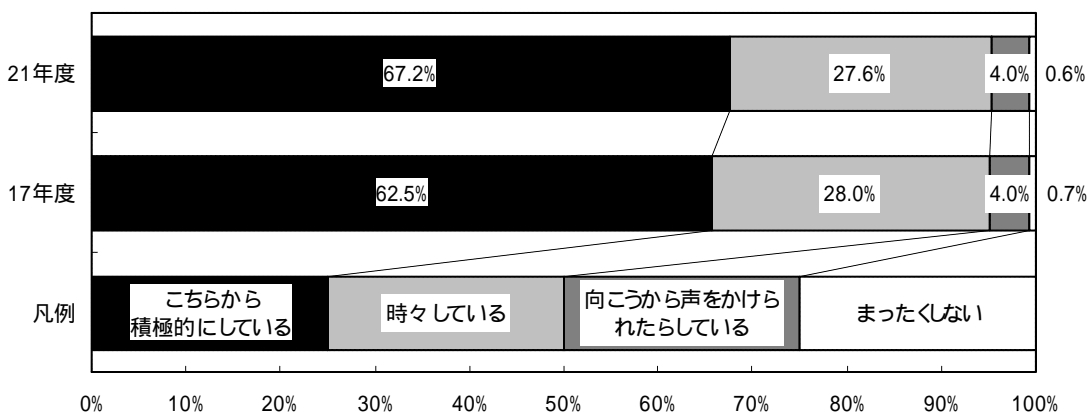
問8 仕事の状況

回答者の仕事の状況は、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



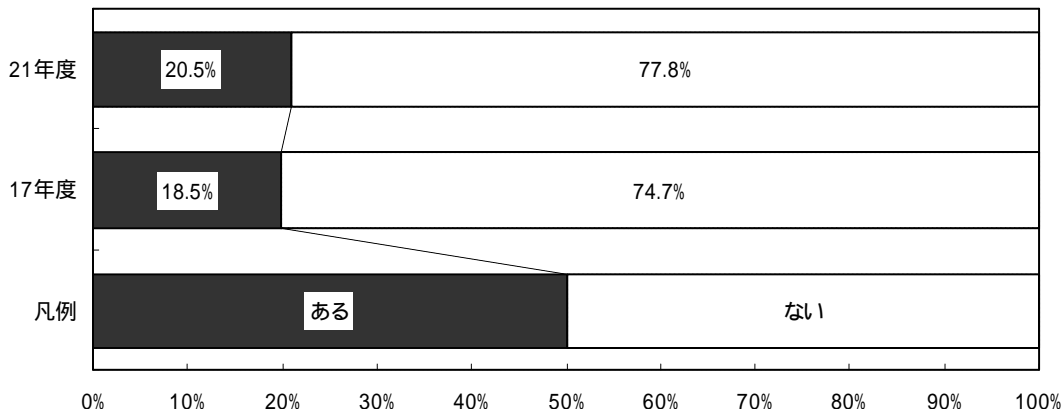
問10 近隣の人へのあいさつ・声かけ

近隣の人へのあいさつ・声かけについても、平成17年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



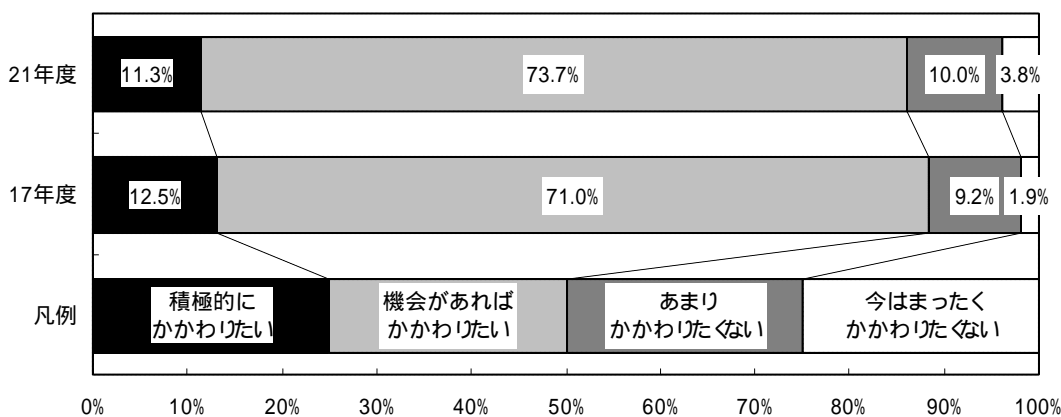
問 11 地域での助け合いの個人的な実践

話し相手や困ったことの手伝いなど地域での助け合いを個人的にしたりされたりしたことがあるかどうかについては、わずかではあるが「ある」が増加している。



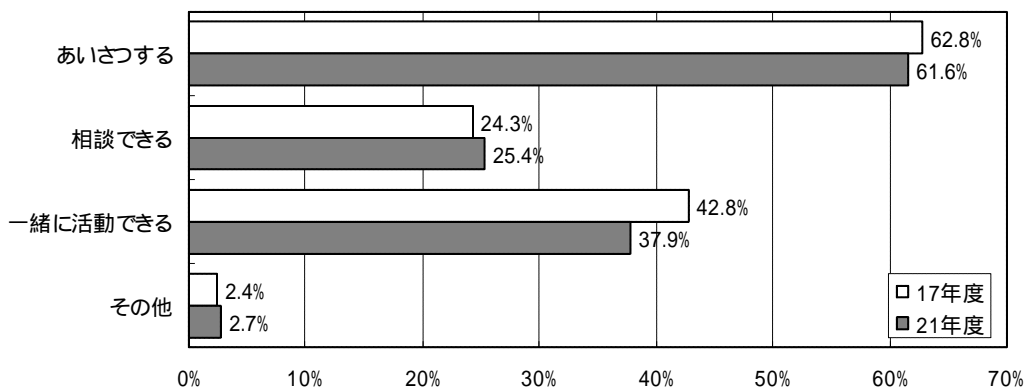
問 12 地域の方との今後のかかわりたい程度

子どもを含んだ地域の方との今後の関わりたい程度は、わずかに「積極的にかかわりたい」の比率が減少しているが、平成 17 年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。



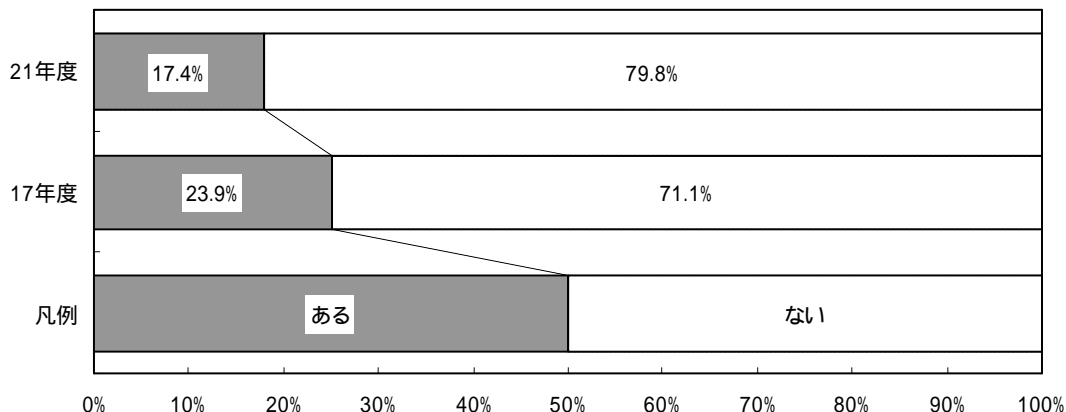
問 12-1 地域とかかわりたくない程度(複数回答)

問 12 で「積極的にかかわりたくない」または「機会があればかかわりたくない」と回答した方に対する地域とかかわりたくない程度は、「一緒に活動できる」が減少している。



問 14 ボランティア活動の参加経験

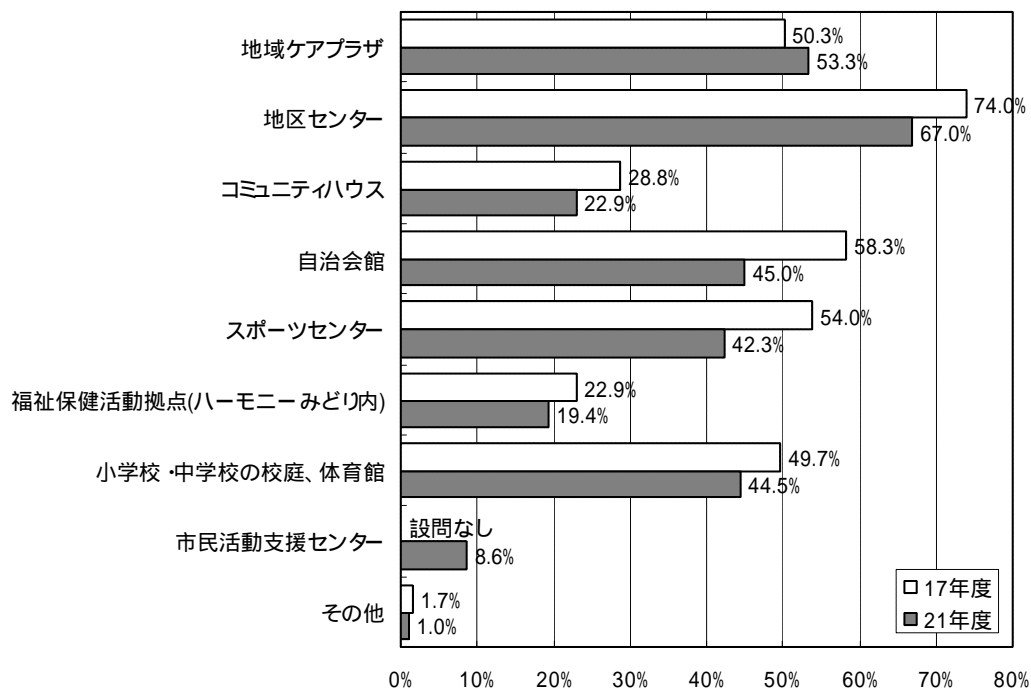
近年のボランティア活動の参加について「ある」と回答した割合は、平成 17 年調査よりも減少している。



問 17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知(複数回答)

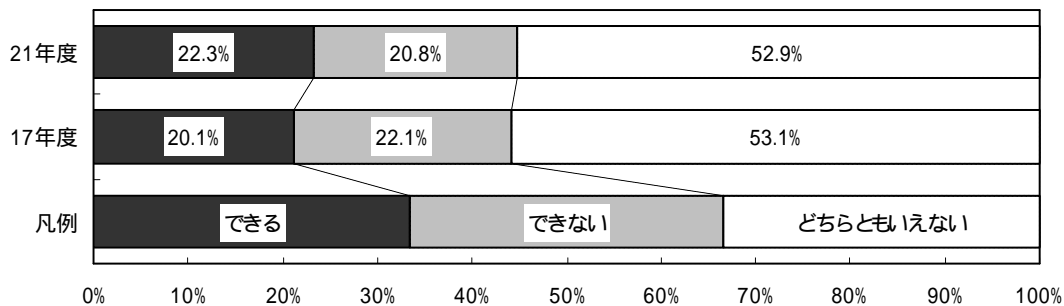
地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知度は、「地域ケアプラザ」がやや増加している以外は、すべての施設の認知度は減少している。

なお、「市民活動支援センター」については、平成 17 年調査時の選択肢には含まれていない。



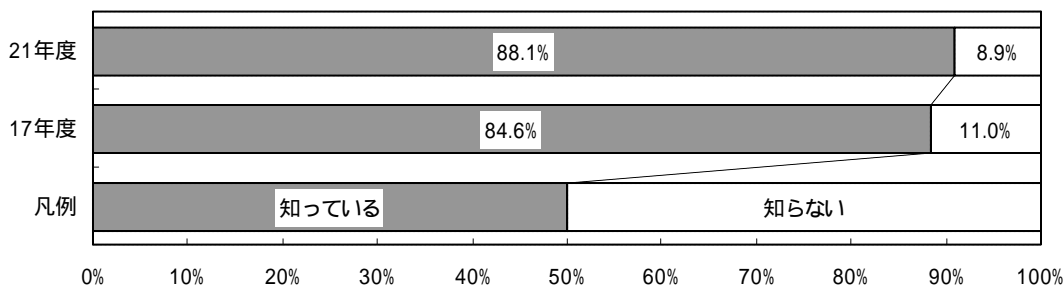
問 23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ

回答者が地域の福祉保健情報を入手する場合、容易に入手できるかどうかについては、「できない」がやや減少し、「できる」がやや増加している。



問 26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度

市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度は、「知っている」がやや増加している。



問 29 日頃から健康のために心がけていること（複数回答）

回答者が日頃から健康のために心がけていることは、「お酒を飲みすぎない」と「タバコを吸いすぎない」がやや減少し、「規則正しい生活をする」がやや増加しているが、全体として平成 17 年度調査と今回の調査では、ほぼ同様の結果であった。

